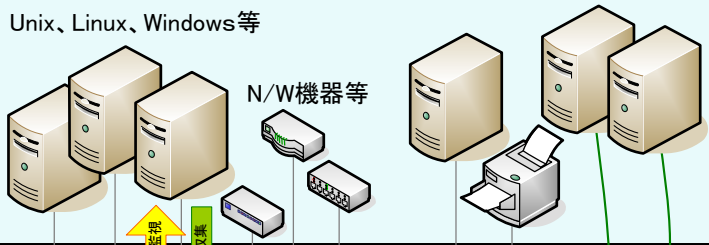


サーバ・ネットワーク機器稼働監視

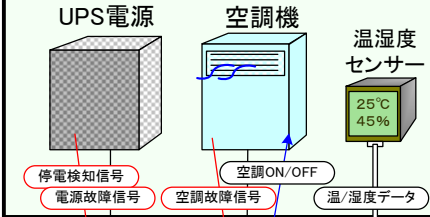
- サーバ稼働監視(Windows/Unix/Linux等)
 - ・PING、ARPや、プロセス(サービス)稼働確認による死活監視
 - ・シスログ(イベントログ)及び任意なログのキーワード監視
(注:Windowsサーバには、ESM用通信サービス(erp)の導入が必要な場合があります。)
 - ・ポート(DNS/SMTP/FTP等)の応答監視
 - ・SNMP(Trap受信/Get要求)による監視
 - ・WEBサーバ ページ改ざんチェック/閲覧操作レスポンス監視
 - ・WMIや他監視Agentとの連携による監視
- ネットワーク機器等の稼働監視

Unix、Linux、Windows等



環境監視・制御

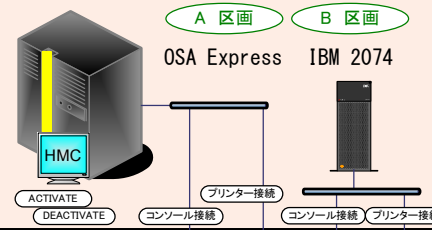
- 環境監視 「温度・湿度」Hi/Low
- UPS監視 「停電発生」・「故障監視」
- 空調機 アラーム監視・運転制御
- その他 「シリアル(RS232C)」・「入出力接点」による監視・制御



- 停電検知信号
- 電源故障信号
- 空調ON/OFF
- 空調故障信号
- 温湿度データ

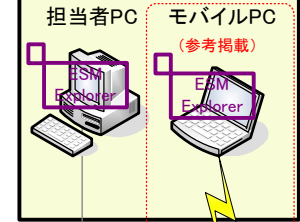
ホスト運用(監視・制御)

- OSコンソール メッセージ監視
- 自動化 IPL操作/Shutdown操作
- 自動化 リブライ要求時の自動応答操作
- JOB稼働状態監視
(※ ホストのMIPS値によるクラス従量課金は発生しません。)



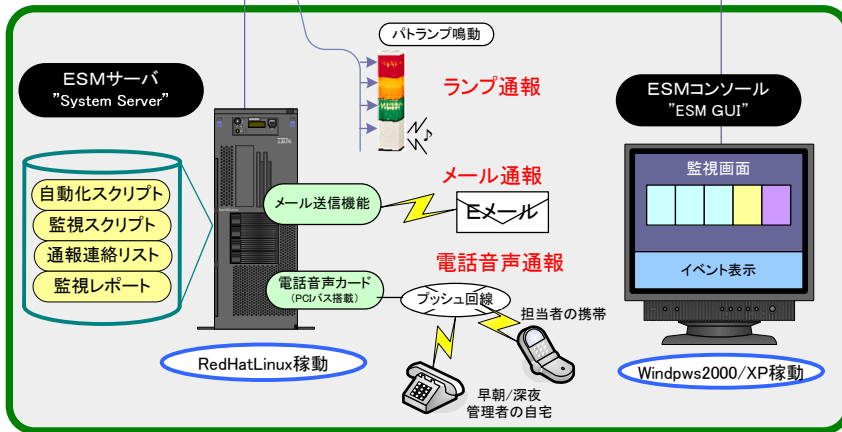
遠隔操作

- コンソールの遠隔操作
 - ・担当者のパソコンやモバイル運用対応 Windows2000/XP (Pro)搭載のパソコンで稼働します。



接続ユニット "SEU"

ESM用ネットワーク



<<ESM 構成要素>>

◎ESMは、ソフトウェアで提供されます。

- ・System Server(ESMサーバ)
 - Linuxで稼働する監視・管理用の装置です。
- ・ESM GUI(ESMコンソール)
 - 監視・管理の状態表示や監視を行うための設定定義を行うコンソールです。
- 以下、オプション
 - ・SEU(System Extension Unit)
 - 監視・管理を行う対象機器との接続用インターフェイス装置です。
 - シリアル接続やTn3270コンソール接続等で監視を行う場合に使用します。
 - ・erp(eVENT rEPORTER pLUS)
 - Windowsサーバのイベントログを監視するためのESM用通信サービスです。
 - WMIを使用しない環境で監視・制御を行う場合に使用します。



【A社様】**〔ESM導入以前の課題〕**

IDC事業立ち上げ時に監視ツールを調査。採用条件はエージェントレス型ツールで、IDC事業のユーザー環境に影響を与えない事が絶対条件。

〔ESM導入効果〕

2003年4月→ESMを導入。エージェントレス型ツールとサークル独自のセキュリティ機能であるLAN接続ではなくSEU装置経由のシリアル接続(RS/232C)によるサーバ接続方式が、ユーザー環境制限に全く影響を与えず、購入コストも安価でIDC事業の監視ツールとして有効活用。現在はESMで約100台のサーバ監視を実現。今後、IDC事業以外に社内サーバも監視予定。

【B社様】**〔ESM導入以前の課題〕**

IDC事業に於ける監視ツールとして「TIVOLI」を採用。エージェント型ツールの為、サーバOS毎のバージョン世代管理の煩雑性、世代毎のマネージャー/エージェントの購入コストの増大、IDC事業でのユーザー環境制限でエージェント搭載、ユーザーセグメント接続など現行ツールでは機能限界があり、総管理コストの増大も合わせ問題点が顕在化。

〔ESM導入効果〕

2004年7月→ESMにリプレース。エージェントレス型ツールの為、上記IDC事業の問題点であるユーザー環境制限に全く影響を与えず。監視構築時もサーバ停止を伴わない、リソースを消費をしない等、基本機能の評価と、購入コストが削減でき、総管理コストの大幅な削減を実現。現在はESMで約500台のサーバを監視し、IDC事業の監視インフラとしての差別化を実現。

【C社様】**〔ESM導入以前の課題〕**

オープン系監視は外部委託先のベンダーが常駐監視しており特に問題は無かったが、サーバ設備環境に於いて停電対策の為、CVCF(大型バッテリー電源装置)とサーバのShutDown機能の為に、サーバ個別にUPS(小型バッテリー装置)を導入しバッテリーの二重投資によるコスト増大が顕在化。

〔ESM導入効果〕

2005年12月→ESMを導入。ESMは環境設備監視・制御のためのSEU装置と各サーバに対し自動コマンド打鍵機能があり、CVCFの停電信号検知で各サーバにShutdownコマンドを発行し電源を自動的に停止し、またPing確認等で電源状態監視を実現。UPS導入・バッテリー交換・スペース・フリーアクセスの荷重問題を解決し総コスト削減を実現。現在はESMで約100台のサーバの自動電源制御と電源状態確認監視を実現。

【D社様】**〔ESM導入以前の課題〕**

従来の汎用機上にLinux環境を構築され、Linuxのバックアップ処理(Linux上のミドルウェア起動・停止、LinuxのIPL・Shutdown、Linuxのデータバックアップ)の運用を実施することになり、オペレータの増員および教育が急務となる。

〔ESM導入効果〕

2006年1月→ESMを増強。Tn3270コンソール接続とssh接続を併用し運用に合わせたスクリプトを実装、Linuxのバックアップ処理を自動化し、オペレータを増員することなく運用を実現。現在9つのLinuxを管理し今後もオペレータを増員することなく、増加するLinux区画への対応を予定。